

大子町における小規模事業者の

# 景況調査報告

平成 29 年 1 月～

令和 2 年 6 月

大子町商工会

**目的：**

大子町の小規模企業者の景況感を継続して調査することで、大子町における小規模企業者全体で景況感を共有することを目的とする。

**方法：**

製造業・建設業、小売・卸売業、サービス業（飲食店等を含む）からサンプルの小規模企業者を約 30 社選び、四半期ごとに景況感の聞き取り調査を行う。聞き取り方法は、直接面接もしくは電話にて行う。

調査期間は平成 29 年 1 月～令和 3 年 12 月までとし、四半期ごとに景況感をまとめ、年 2 回報告する。

**対象事業者：**

大子町にて事業を行っている小規模事業者

**調査項目：**

- ① 売上高、販売単価、粗利益、資金繰り、人材確保、景況感、風評被害について前年度同時期と比較した。
- ② 新型コロナウイルス感染症の影響が、大子町の中小企業者にどの程度影響したかを調査した。
- ③ 大子町で事業を行う上で、現在認識している課題・問題点を調査した。

### 調査属性

製造業（食品加工業を含む）	6社
建設関連業	6社
小売業（卸売業を含む）	9社
サービス業（飲食、観光含む）	10社

### 事業者の規模

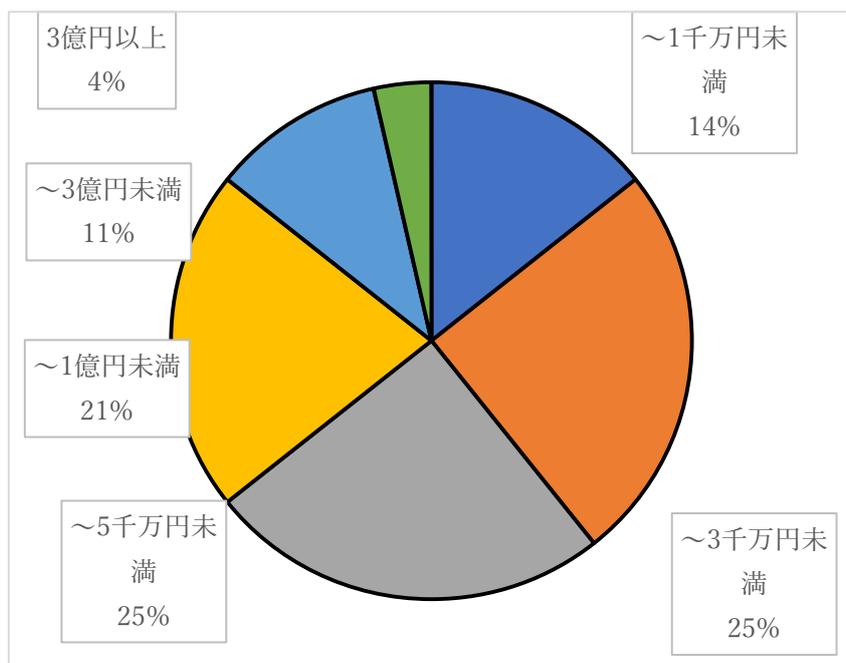


図1 売上規模による事業者の調査割合

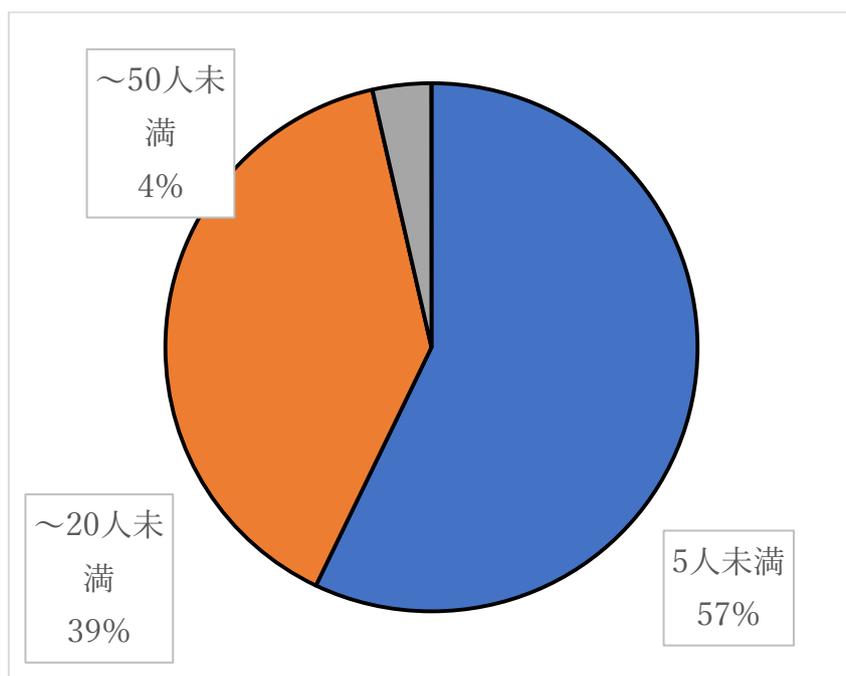


図2 従業員規模による事業者の割合

## 1. 景況感について

大子町では、令和元年に入ってから、産業全体に不景気懸念が強くなりました。さらに追い打ちをかけるように、令和1年10月の台風19号の被災に加えて、令和2年当初からの新型コロナウイルス感染症の影響から、不景気感がさらに強くなりました。

しかし、そのような中でも建設関連業は、安定的な動きを示しています。建設業は平成30年ころに好調の時期もありましたが、令和1年になり一時期低迷し、台風災害により回復傾向となり、コロナ禍においても安定しています。

令和2年4月のDIでは、建設関連業を除くすべての業種で景況感の悪化を示しています。今までにないほどの落ち込みとなっており、特に、サービス業（飲食、観光含む）と製造業（食品加工業含む）の低下が著しいようです。

そのような中でも、業態の違いによっては、コロナ禍の影響を受けずに売上が確保できている、または、良くなったという事業所も数少ないですが見かけることができます。

表1 令和2年4月～6月間のDI※1

	売上高	販売単価	粗利益	資金繰り	人材確保	景況感
製造業 (食品加工含む)	▲ 100.0	0.0	▲ 80.0	▲ 60.0	▲ 20.0	▲ 100.0
建設関連業	16.7	0.0	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 16.7
小売業 (卸売業含む)	▲ 62.5	▲ 37.5	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 75.0
サービス業 (飲食、観光含む)	▲ 90.0	▲ 50.0	▲ 70.0	▲ 40.0	0.0	▲ 90.0
全業種計	▲ 62.1	▲ 27.6	▲ 51.7	▲ 34.5	▲ 10.3	▲ 72.4

### ※1 DI (Diffusion Index : 業況判断指数)

「景気が良い」と感じている企業の割合から、「景気が悪い」と感じている企業の割合を引いたものを%ポイントで表した景気判断指数の一つです。プラスは良くなった。マイナスは悪くなった。と、とらえることができます。

大子町における、業種別、項目別のD Iの推移を以下に示します。

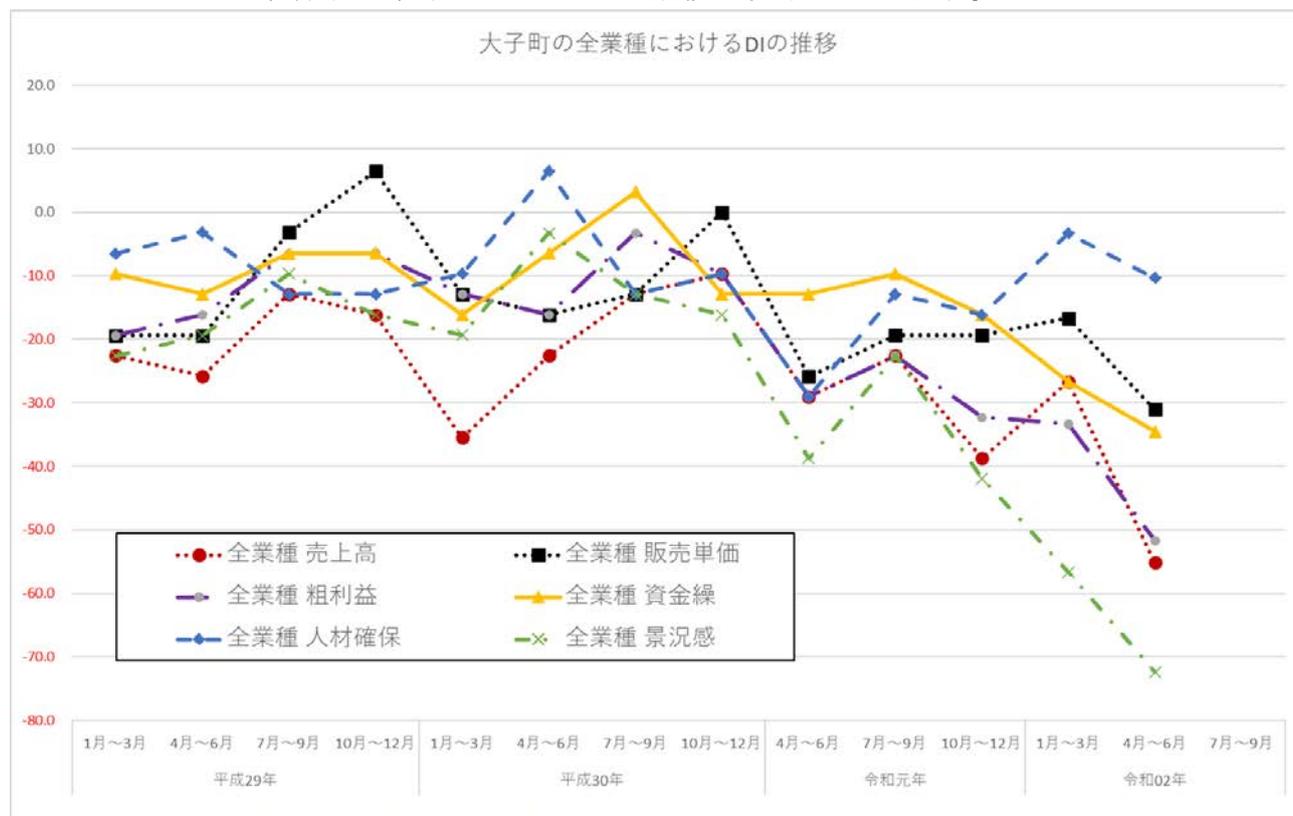


図1 大子町の全業種におけるD Iの推移

図1では、大子町では、3.11の災害からの風評被害の影響がなくなったと感じる方がいなくなったようです（実際に風評被害の影響は続いています）。

今回の調査では、すべての指標がさらに低下しました。特に、景況感に不安視する事業者が多いようです。平成30年11月の米中貿易戦争、令和元年4月は年金後2千万円問題による景気の鈍化、同年10月の大子町における台風19号による被災、さらに令和2年に入ってから新型コロナウイルス感染症による経済の麻痺が全体をさらに低下させています。

景気が低迷すると、人を雇う必要性がなくなったとも受けとれますが、大手が人材を放出するので、人材確保がしやすくなった？とも言えるのでしょうか。一般的に、景気の低迷期は中小企業・小規模事業者にとって人材確保がしやすいともいわれています。

図2では、多くの事業所は令和1年10月の台風の影響で売上の低下を招きました。さらに、年を明けてから新型コロナウイルス感染症の影響で売上の低下を招いたようです。しかしながら、建設関連業者に関しては、追い風になっているようにも見て取れます。

図3では、平成29年～30年にかけてすべての業種で販売単価の上昇がみられました。概ね、値上げの交渉がうまくいったといえるかと思えます。しかしながら、令和元年に入ってから、サービス業、小売業には恩恵がなかったようです。特にコロナ禍においては、さらに価格の低下も招いているようです。「売れなくなっているのに値下げをしている」ように

も感じ取れます。コロナ禍において、不要な値下げ戦略には疑問を感じます。

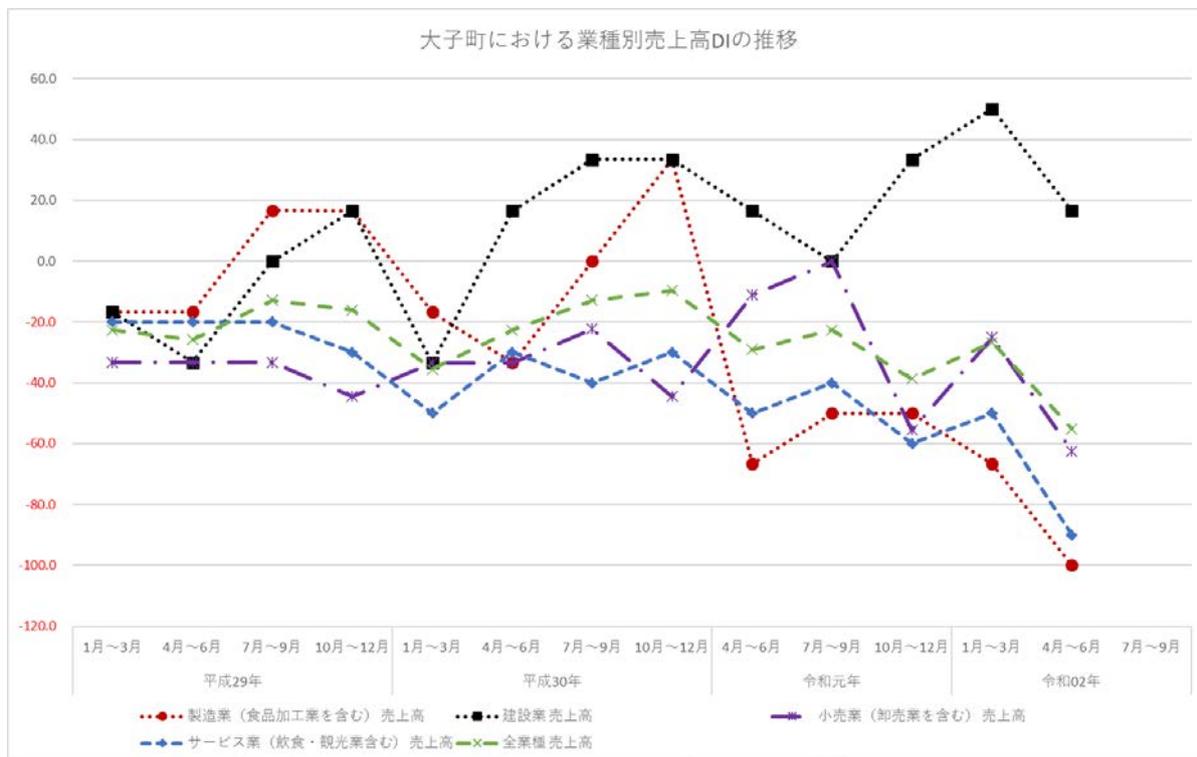


図2 大子町における業種別売上DIの推移

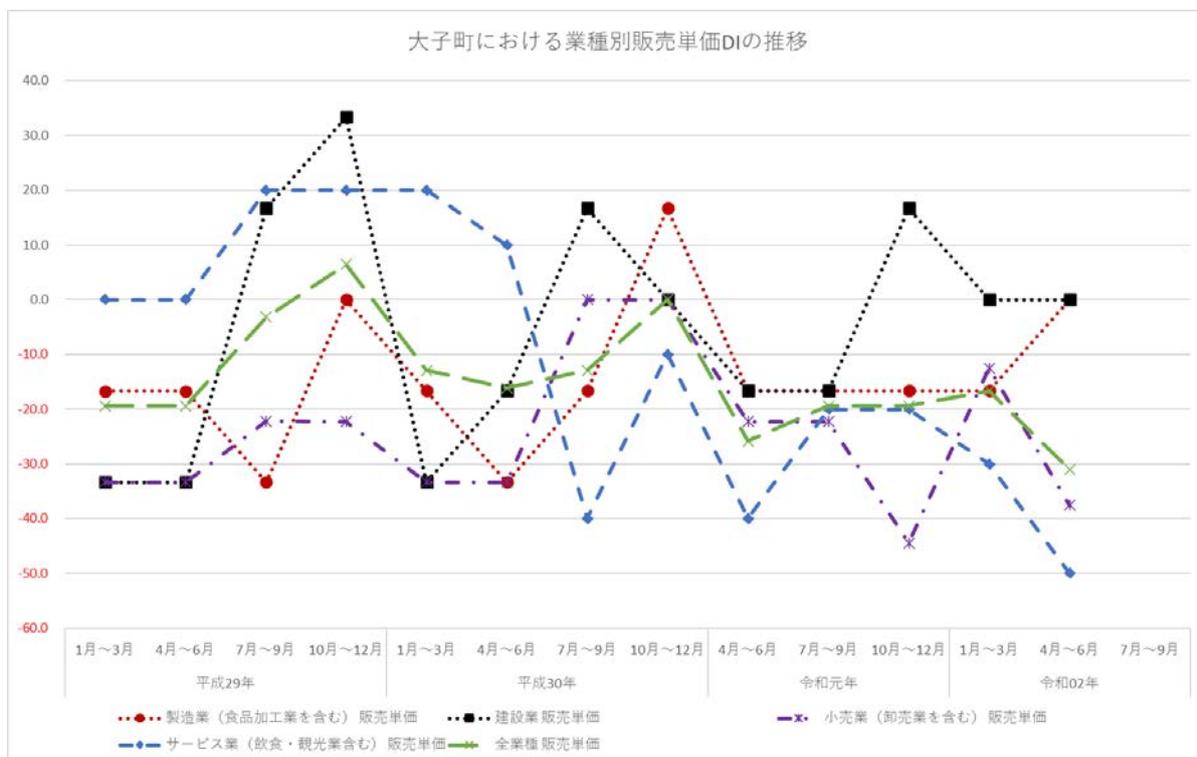


図3 大子町における業種別販売単価DIの推移

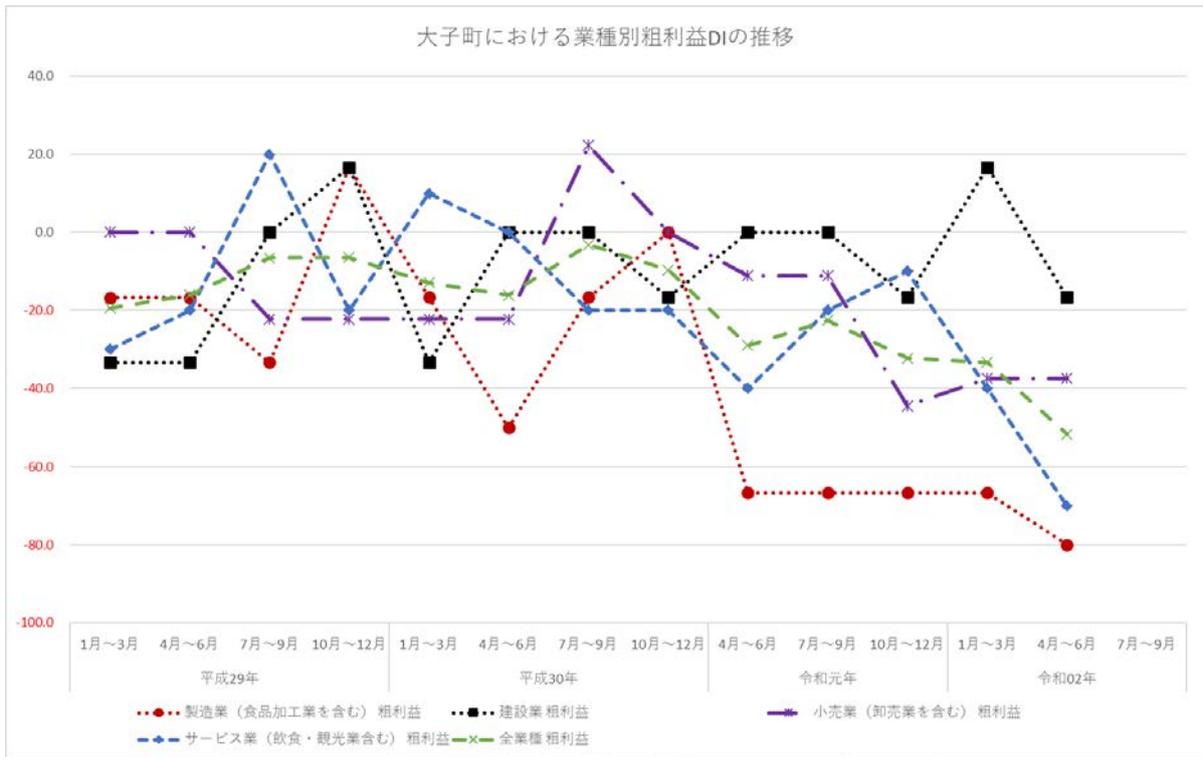


図4 大子町における業種別粗利益DIの推移

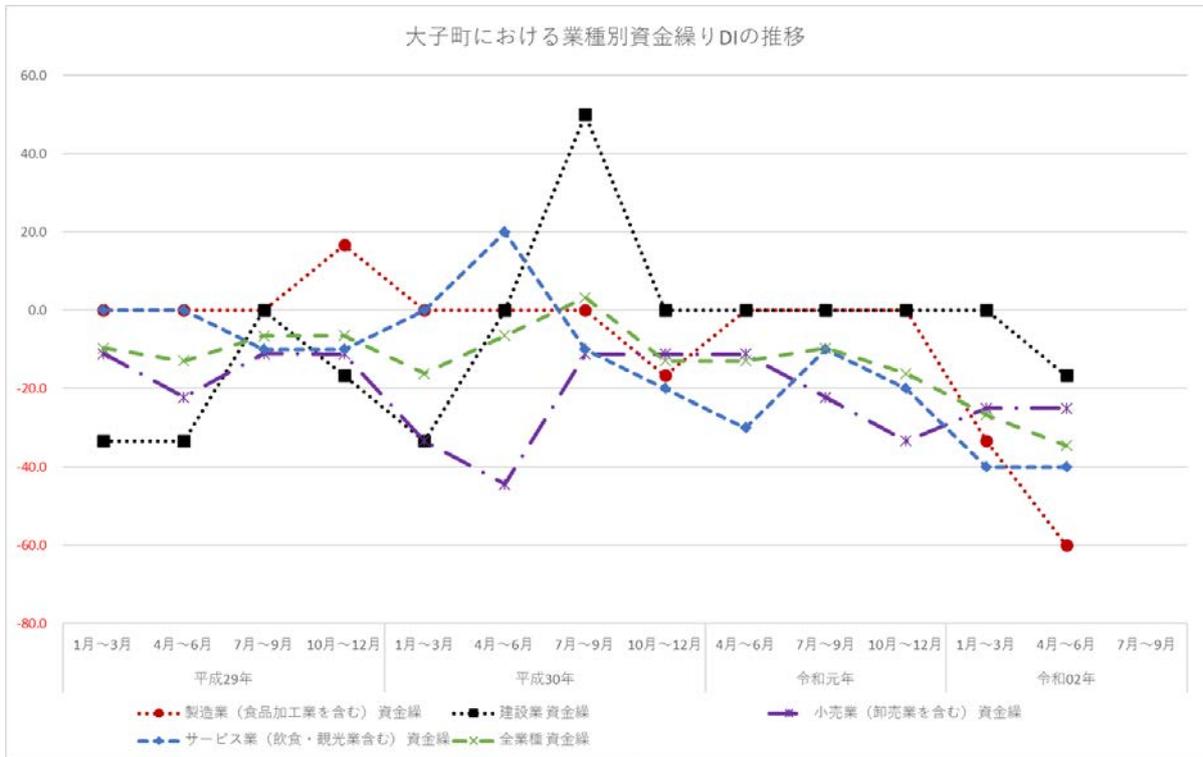


図5 大子町における業種別資金繰りDIの推移

図4では、平成29年～30年にかけて単価を上げることができた小売業やサービス業（飲食店など）の粗利益がよかった時期もありましたが、時間の経過とともに、徐々に下がりつつあるのが現状です。これは、仕入れ価格や人件費の高沸が原因になっているようです。

製造業においては、米中貿易戦争後から売上が回復せず、利益がとれない苦しい状況が続いていようです。さらにコロナ禍においては、利益が確保できない状況がさらに強くなってきました。製造業は特に国内需要に対しての取組が必要不可欠な時期になっているかと思えます。

図5の資金繰りに関しては、昨年10月の台風19号の被害さらに、新型コロナウイルス感染症の影響により軒並み低下傾向が続いています。金融機関などは、有利に借入ができるようですが、借りたお金はいずれ返さなければならないということを心して借りるようにしなければなりません。古から、「損失補填に借入をすると返済が窮する」と言われています。本来であれば、このような場合は、難しいとは思いますが、自分たちの預貯金で過ぎ去るのを待つというのがセオリーであると思えます。

図6にあるように、大子町の中小企業でも、景気が良くなると人材不足がおこり、景気が悪くなると人材過剰が起こっています。ある意味、景気低迷の時は、良い人材を確保するチャンスであるとは言われています。ただし、今回のコロナ禍においては、人材を引き留めることも難しいかとは思えます。

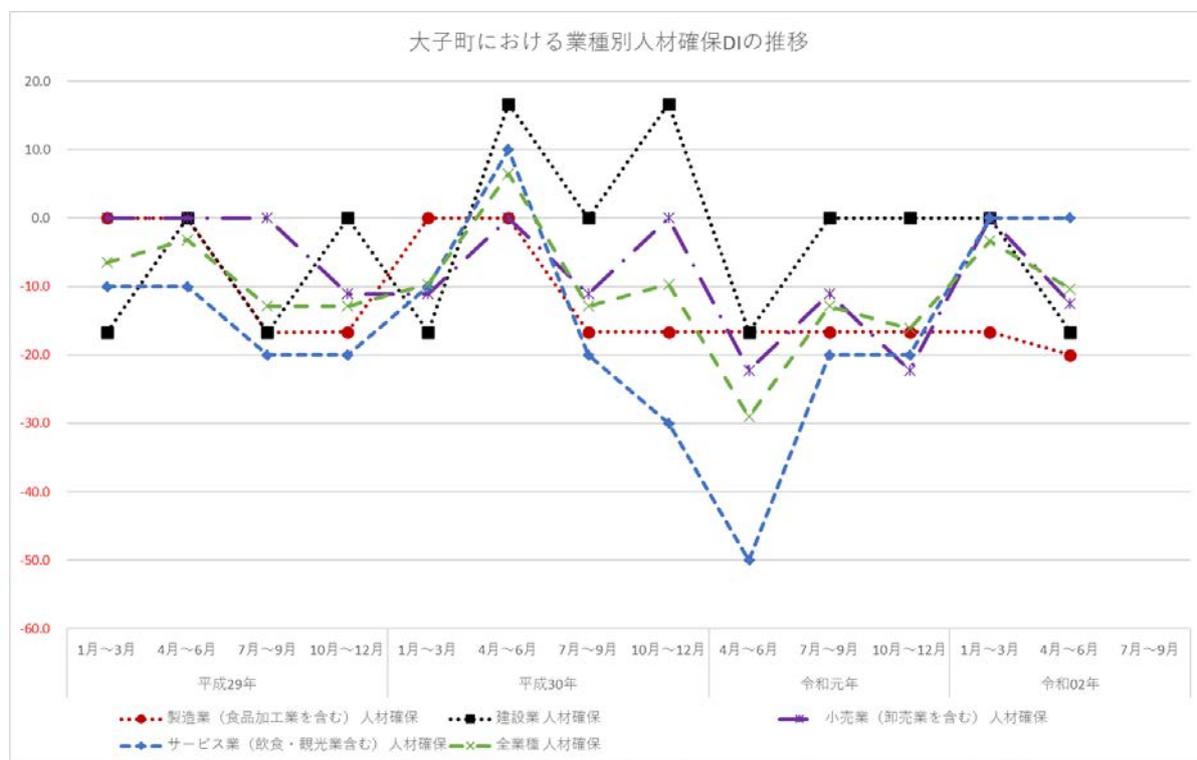


図6 大子町における人材確保DIの推移

図7の景況感に関しては、建設関連業を除くすべての業種が大きく低下しています。今後の不透明感が事業者に対して不安感を募らせていることがうかがえます。ビジネスの形態から考えると、製造業にとってはコロナウイルス感染症の影響はないかと推測していましたが、想像以上にサプライチェーンの毀損が大きかったことがうかがえます。建設関連業者は国内需要なのであまり影響を受けず、対して製造業者は輸出が減り生産規模が急激に小さくなったことがうかがえます。

また、サービス業や小売業者にとっては、特に大子町は観光地である視点からも、他地域からの来訪者が減少したことが景況感低下の大きな原因になっていることが容易にうかがえます。なれない業態転換を要求されますが、同地域内での引きこもり需要などにも強く対応することが必要であるとは言われています。

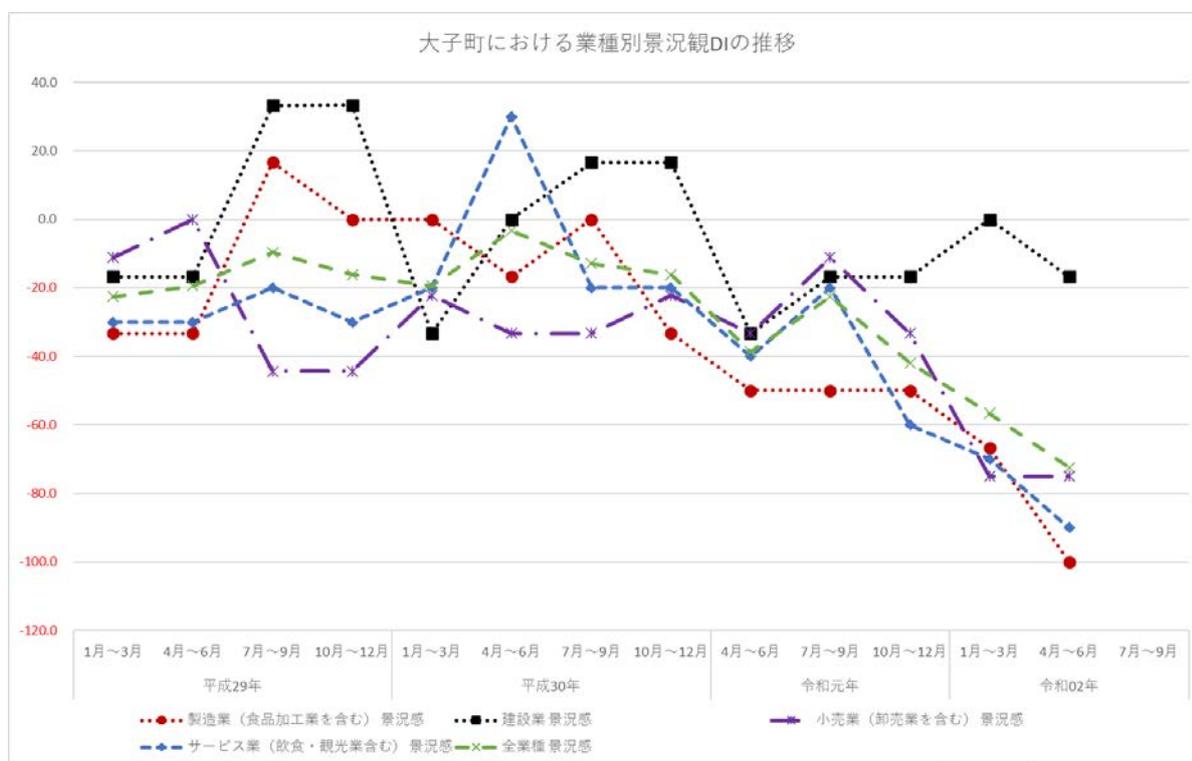


図7 大子町における景況感DIの推移

## 2. 新型コロナウイルス感染症の影響

図8では、新型コロナウイルス感染症の経営への影響をまとめました。本年1月～3月にかけては影響はあまりなかった事業者もありましたが、4月～6月にかけては売上の減少、資金繰りの悪化、材料入手の困難などが目立つようになりました。

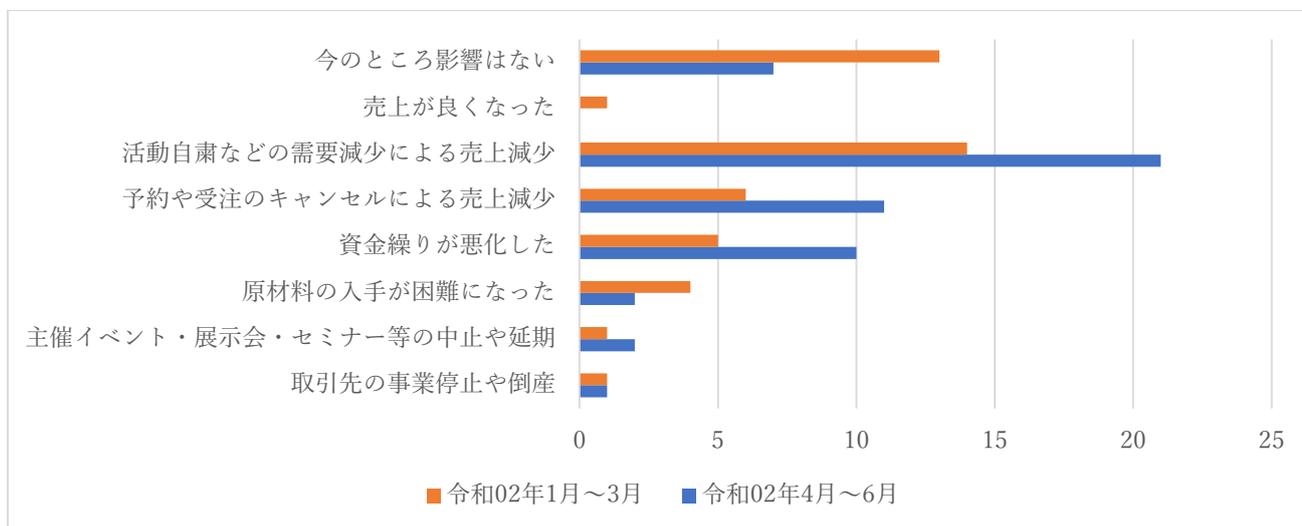


図8 新型コロナウイルス感染症の経営への影響

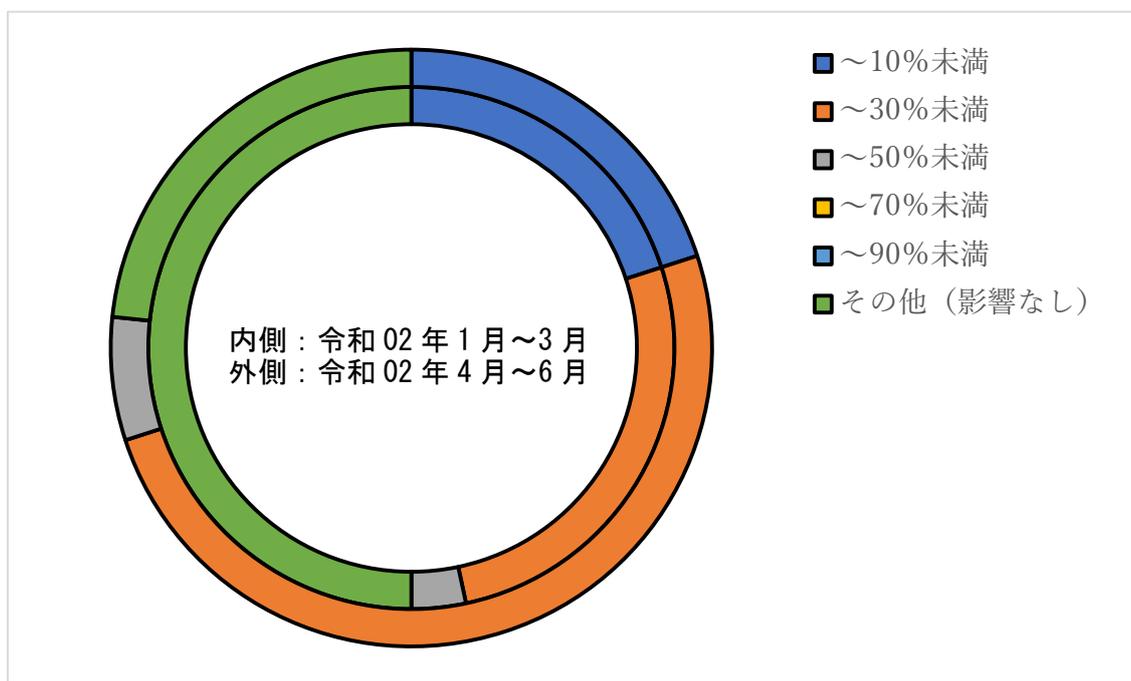


図9 売上低下の状況

図9においては、新型コロナウイルス感染症影響によりどの程度売上が低下したかをまとめました。4月を過ぎてから全体の8割近くが、売上50%以下になっています。非常に危険な状態であるといえます。しかしながら、全体の2割強は、その他（影響なし）という事業者もいるようです。

図10では、新型コロナウイルス感染症の影響をどのように対策をしているかをまとめました。4月を過ぎてから、給付金・助成金・補助金などの申請や融資申し込みなどが顕著になっています。

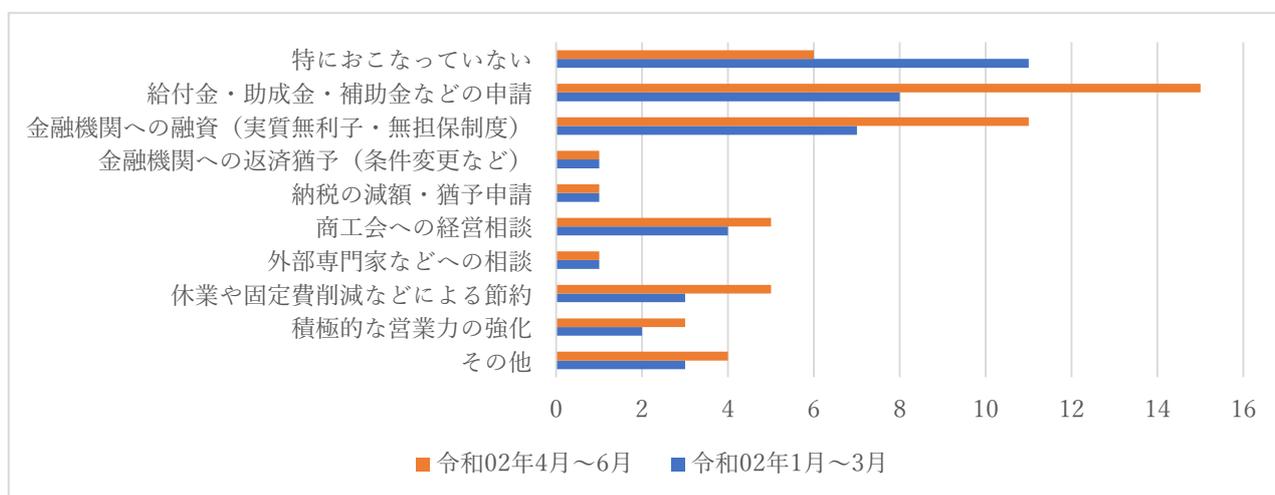


図10 新型コロナウイルス感染症の影響による対策

### 3. 小規模事業者の課題意識について

新型コロナウイルス感染症の影響により経営者の経営課題意識が大きく変わりました。

図12では、需要の停滞・売上の伸び悩みを訴えると同時に資金繰りの悪化や生産性の低下・改善不足、人件費の増加などが目立つようになりました。対して、従業員の確保難や生産設備の不足・老朽化が減少しています。

これらのことから、今回の新型コロナウイルス感染症の影響では、景気が悪化したことで、資金繰りに窮するようになり、人材が過剰になったことが読み解けます。また、設備投資などの事業を成長させようとする心が萎えてしまっているように感じます。

個人的な見解ではありますが、経営を復興させるための勝負をかけるのであれば、コロナ禍が過ぎてからだと考えています。現時点では、勝負をかける時期ではなく、生き延びる対策をすべきであると思います。

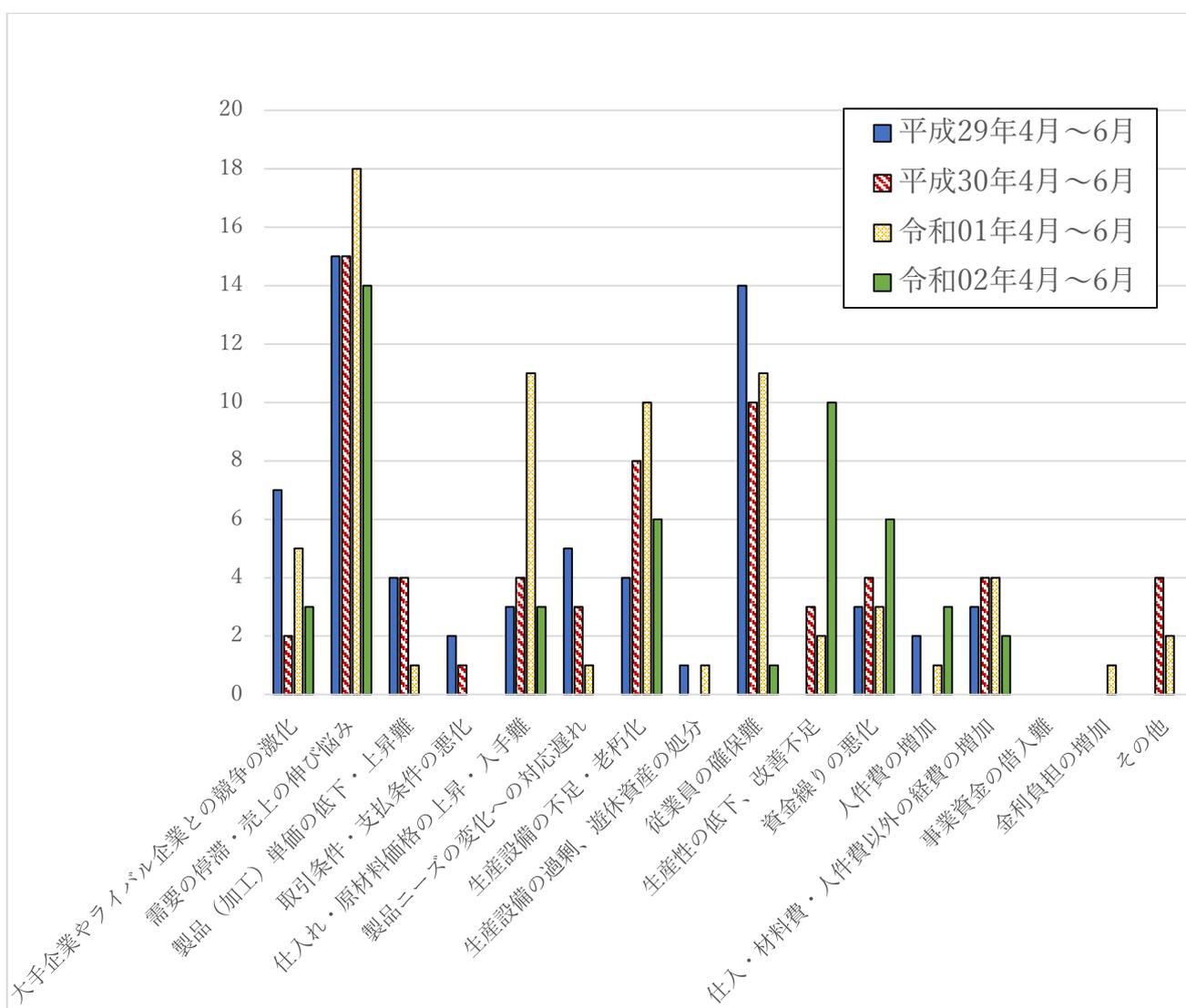


図12 大子町における小規模事業者の課題意識